

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

# 吹きガラスと最新3D技術の融合

小尾野 香織 大阪／クリエイティブディレクター

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

## 「匠」のモノづくりに挑む「匠」を応援

本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、生駒芳子氏(フアッシュョン・ジャーナリスト)／アート・プロデューサー(下川一哉氏(意匠と匠研究所)らをサポートメンバーに発足。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への指定やロックフェラー家主催のチャリティイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せている。

3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイナー関係者などに向けて自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきつ

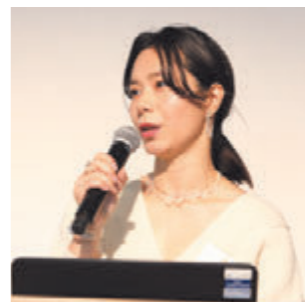


1月24日 プレゼンテーションにて



スーパーバイザー 小山薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



プレゼンする小尾野さん

けとなる大きなチャンスを手にした。

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター(コラボレーター)が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏(建築家)、廣川玉枝氏(SOMARIAクリエイティブディレクター)、森永邦彦氏(ANREALAGE/代表取締役社長・デザイナー)、辰野しずか氏(クリエイティブディレクター)／プロダクトデザイナー(「が登壇し、想いを語った。2019年秋頃には、完成したコラボ作品、過去のプロジェクトから生まれた匠たち



展示ブースでバイヤーに説明

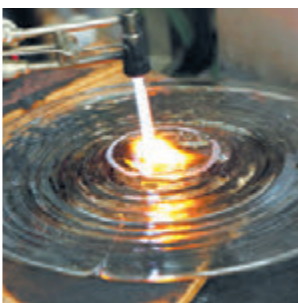
の作品を披露するイベントを京都の地で開催することを合わせて発表。プロジェクトも一歩一歩進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。大阪府選出の匠、クリエイティブディレクターの小尾野香織さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

## 3Dモデリングで水の動きを再現

小尾野さんの作品は、最新技術でつくられた「水の3Dモデル」と約3千年の歴史を持つ吹きガラス技術の融合に挑戦した画期的なもの。プロダクトデザイナーの田上雅彦さんがつくる水の美しい波紋や水面の小さな泡立ちを3D技術によって再現したデジタルアート作品に魅了された小尾野さんが、この水面の美しさを透明なガラス皿の上に写し取りたいと考えて生まれたのが、今回のプロダクトだ。

「従来の吹きガラスの製法では、同心円状以外の模様をお皿に描くことは不可能でした。今回は田上さんに協力を仰ぎ、ガラスが吹き上がった時に水の立体的な動きが現れるように計算して3Dモデリングの型を制作。最新技術との融合という新たな試みに挑戦してくれ大阪の吹きガラスの職人さんを探し、3人でアイデアを出し合うことで、この作品が完成

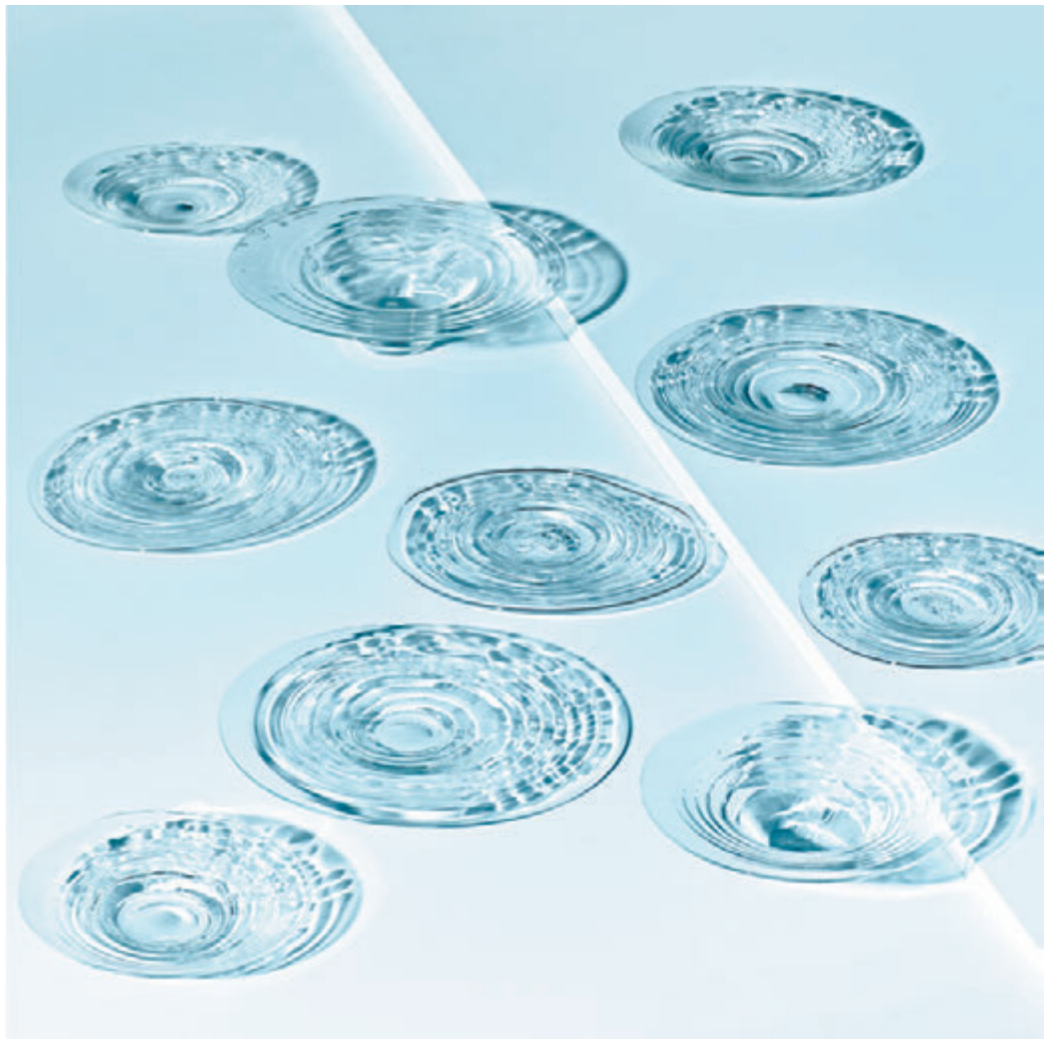


新しい技法に思考をこらす

## 透明なガラスの新しい表情を追求

小尾野さんはガラス・ジュエリー等をデザイン・制作するプロデューサーであり、様々な特徴のある日本各地の産地やショップのプロデュースやブランディングを行うクリエイティブディレクターでもある。

「人と人、モノとモノの間に存在する目に見えない境界線を溶かす水のような存在でありたいと考え、全く違う世界の人たちとの協創を心がけています」と、仕事のポリシーを語る小尾野さん。今回は、「デジタルアートと吹きガラス職人とのコラボレーションを実現させ、透明なガラスの上に水の美しさを再現。これまでになかったガラスの表情が楽しめる作品を



完成プロダクト「水庭-minaniwa-」

しました。3Dモデリングの型を使わなければ実現できない模様です。型から出してから吹き方によって少しずつ違う形のもので生まれるので、最新技術と手仕事のよさが融合した革新的な作品になりました。

プロジェクト参加当初はガラスのジュエリーを制作することも考えていたが、生駒氏から「このプロジェクトでしかできない作品をつくって」とアドバイスされ、今まで挑戦したことのない、吹きガラスの作品に挑むことを決めた。試作を重ねて完成度が上がったと喜んだ矢先、エリア・コンサルティングで生駒氏より、「型のつなぎ目の縦のラインが出ていますが、消せないか」と言われて頭を抱えた。短いプロジェクト期間内

では難しいと思ったが、吹きガラス職人が工夫を凝らし、予想外の技で見事にこの難題を解決してくれた。「水の質感をガラスの質感で表現し、テーブル上の芸術品と言えるお皿ができました。自然を愛する日本らしい作品なので、今後はこのシリーズを世界に通用するブランドに育てていきたいと思っています」。

生み出した。

「大阪はガラス発祥の地であり、今もガラス制作が盛んな土地で、作家同士が互いに刺激し合いながら作品づくりができるのが利点です」と言う小尾野さん。プロジェクトに参加して改めて感じたのは、好きなものをつくる喜びだった。「仕事として制作しているとはシビアな納期と予算に縛られますが、今回はつくりたいものをつくることを追求したので楽しかったです。今後は、このお皿を多くの人に使ってもらえるように販路を開拓したい」と、意欲に燃えている。



異なる業種のコラボレーションで新しい作品をつくり出していく



エリア・コンサルティングにて左:小尾野さん、右:生駒氏



小尾野 香織(こびの かおり) 大阪／クリエイティブディレクター

大阪府生まれ。大学でマーケティングを学ぶ。卒業後は繊維メーカーにて素材開発、ブランドマーケティングに携わる。2016年に企画、ブランディング業を行う「SOBIブランディング」を設立。ブランディング業を行う傍ら、2017年「素材の美」と「あそび心」をコンセプトに、日本の技術を用いたジュエリーブランド「sobi」を立ち上げる。「目に見えない境界線を、たゆたう水のように満たすこと」をテーマとして活動。

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT